

テーマセッション報告③

「第一回行政研究部会研究集会」

学会における行政と研究の協働をめざして

松田 奈帆子

(栃木県民の森管理事務所・部会広報担当幹事)

野生生物保護学会に新たに行政研究部会が発足した。2005年の金沢大会から行政機関や試験研究機関に所属する会員が中心となり野生生物保護行政懇話会として開催してきたが、2008年の長崎大会の会員総会で、部会として承認され本格的な活動を開始する。これを受けて長崎大会では、第1回の研究集会(TS)が行われた。

冒頭で、部長あいさつとして、鳥居春巳氏(奈良教育大学)から、「学会立ち上げ時、行政にあるデータの吸い上げも考えられていたが、なかなか学会に行政関係者の参加ができてこなかった。この部会によって行政関係のデータの活用と行政のフォローアップを行えるようになればと思う。まず、行政の課題、問題を明らかにしてほしい。」とのコメントがあった。

次いで、副部会長のあいさつとして、野崎英吉氏(石川県自然保護課)

から、「行政は、動きの鈍い点もあるが、一度システム(流れ)が出来上がるとその通り流れていくという良い点もある。この流れの中で多くのデータが集まってくる。これを研究側は活用することもできる。また、県予算などは予測ではなかなか組めないが、研究成果など科学的根拠があれば財政に通じる。研究側はそのところをバックアップできる。研究と行政は協力しながらやって行ければと思う。」とのコメントがあった。

その後、「行政担当者の研究・発表に関連して」と題し部会設立担当理事の奥山正樹氏(環境省)から、様々な角度からみた学会の中での行政と研究の現状についての話題提供。学会員の構成から、学会に参加している人の区分は学生が圧倒的に多いが、その他として、行政関係者のほか、NPO関係者などが入っている。そして、学会の学問領域は広く、学会員の研究等の対象も哺乳類

だけでなく、水生生物やランドスケープまでもとても多様で、そういう様々な人が学会に関わっている。さらに、行政の職員が研究等の発表をする場合にどのようにかかわるかという点では、「担当業務として」、「担当ではあるが業務外として自主的に」、「担当ではないがライフワークとして」関わる3つのパターンがあると考えられる。これらのことを踏まえ、研究と行政との関わりのだ

行政担当者(行政官)の研究・発表のイメージ

- ①直接担当業務に関して講演・執筆の依頼を受けて発表
=公務として対応
- ②担当業務に関連する周辺状況や歴史的背景等について自主的に発表
=発表時の所属や発表内容に応じて適宜対応
- ③担当業務に直接関連しない内容(個人的研究、ライフワーク的なテーマに関するもの)を自主的に発表
=個人(公務以外)として対応

行政研究部会の重点として支援を図るのは③→②→①のイメージか?

図1.

これにより重きを置いてバックアップしていくかの方向性が見えてくる(図1)。
次に話題提供2として、部会設立担当理事の丸山哲也氏(栃木県自然環境課)が「行政情報と研究」と題して報告。今は、行政としての情報の必要性が、説明責任や費用対効果といった観点から大きくなっている。一方で、予算・人材の不足が進み、必要があってもなかなか行政の

求めるもの、求められるもの

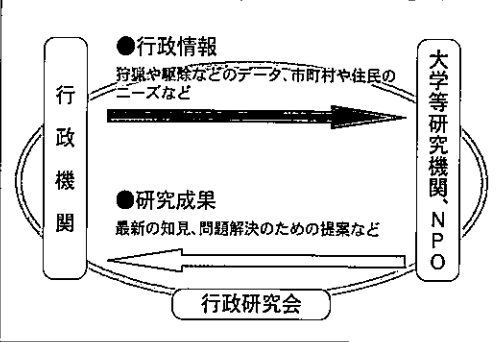


図2.

みでは動きが鈍い。今後ますます行政側からも社会的にも大学・NPO等との情報のやり取りは求められる。この部会を通して、両者をうまく結び付けて良い方向に持っていくことができる(図2)。

話題提供を受けての会場の参加者全体での討論では、被害問題は被害発生後に対応せざるを得ないなど行政が問題を先取りできない体質の改善や、行政の調査結果をデジタル情報で残すシステムが必要といった意見が出たほか、行政ニーズの把握など、今後の課題を抽出していくこと自体も必要であるとの提案があった。

総合コメントでは、赤坂猛氏(酪農学園大学)が、「行政にも国、県市町村とレベルがありそれぞれの関係の複雑さがある。行政の制度として担当者の異動があり一定レベルのデータの蓄積を継続すること自体が困難である」と指摘し、羽山伸一氏(日本獣医生命科学大学)は、「先進国での研究と政府、調査機関との連携の良さ」を紹介しながら、「社会的ニーズに合わせた人材の育成制度の必要性」を指摘した。

第1回目の研究会ということ、話題も多岐にわたったが、行政

※次ページに部会設立の案内を掲載しました。

と社会的なニーズに関わる課題についての紹介や提案が目立った。行政と研究、社会的なニーズにまつわる課題は多種多様であり、この部会の携わるべき仕事がたくさんあることが参加者全員の印象に残ったのではないだろうか。

この学会の設立当初から、研究と自然保護に関わる行政との関係は切り離せないものと考えられていたようであるが、学会本体という大きな集団の活動だけでは研究と行政に関わる課題についての議論を深めることが難しいと思われる。そこで、この行政研究部会を設立することで、研究や自然保護と行政の関係の中で起こっているさまざまな課題をダイレクトに抽出、解決策等を検討していく場ができたと考えられる。

現在、この部会の構成メンバーは、行政機関や試験研究機関に所属している学会会員が中心だ。より深い議論やより上手な行政データの活用のため、また、参加者の相互作用によって行政施策へ活動の反映ができるように、これからは枠を広げ、学生やNPOの職員、会員、さらには学会員以外の行政関係者などにも参加してほしいと思う。

図説哺乳類動物百科

世界中に生息する哺乳類について、地域ごとにまとめた“MAMMAL”の翻訳

図説哺乳動物百科 1 ー総説・アフリカ・ヨーロッパー

遠藤秀紀監訳 名取洋司訳

A4変判 88頁 定価4725円(本体4500円) (17731-2)

【内容】総説(哺乳類とは/進化/人類の役割/哺乳類の分類)。アフリカ(生息環境/草原/砂漠/山地/湿地/森林)。ヨーロッパ(生息環境/草原/山地/湿地/森林)

図説哺乳動物百科 2 ー北アメリカ・南アメリカー

遠藤秀紀監訳 名取洋司訳

A4変判 84頁 定価4725円(本体4500円) (17732-9)

【内容】北アメリカ(生息環境/草原/山地と乾燥地/湿地/森林/極域)。南アメリカ(生息環境/草原/砂漠/山地/湿地/森林)

図説哺乳動物百科 3 ーオーストラレーシア・アジア・海域ー

遠藤秀紀監訳 名取洋司訳

A4変判 80頁 定価4725円(本体4500円) (17733-6)

【内容】オーストラレーシア(生息環境/草原/砂漠/湿地/森林/島)。アジア(生息環境/草原/山地/砂漠とステップ/湿地/森林)。海域(生息環境/沿岸域/外洋/極海)

生息地復元のための野生動物学

M.L.モリソン著 梶 光一他監訳

B5判 152頁 定価4515円(本体4300円) (18029-9)

地域環境を復元することにより、その地域では絶滅した野生動物を再導入し、本来の生態を取りもどす「生態復元学」に関する初の技術書。【内容】歴史的評価/研究設計の手引き/モニタリングの基礎/サンプリングの方法/保護区的设计/他

HEP入門 ー〈ハビタット評価手続き〉マニュアルー

田中 章著

A5判 280頁 定価4725円(本体4500円) (18026-8)

野生動物の生息環境から複数を定量的に評価する手法を平易に解説。【内容】HEPの概念と基本的なメカニズム/日本でHEPが適用できる対象/HEP適用のプロセス/米国におけるHEP誕生の背景/日本におけるHEPの展開と可能性/他

野生動物学概論

田名部雄一・和 秀雄・藤巻裕蔵・米田政明著

A5判 250頁 定価4725円(本体4500円) (45010-1)

大学学部で「野生動物学」を学ぶ獣医学・畜産学系学生のためのテキスト。野生動物の保護保全に必要な知識、方法そして姿勢を平易にまとめた。【内容】野生動物の系統と分類/調査法/生態/増殖/行動と社会/野生動物医学/保護管理

朝倉書店

〒162-8707 東京都新宿区新小川町6-20 (ISBN) 4-978-4-254-6 各書
電話 営業部 (03) 3260-7631 FAX (03) 3260-0180
http://www.asakura.co.jp HPで新刊案内メール会員募集中(登録無料)